



「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会
〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知保険医会館内
TEL ; (052) 832-1349
FAX ; (052) 834-3584

患者・国民が受診しやすい歯科医療を実現しよう！ 愛知連絡会が第7回定期総会を開催

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は5月26日(日)午前10時～12時に、愛知県保険医協会伏見会議室で第7回定期総会を開催し、2012年度活動報告、2013年度活動方針などを確認しました。

当日は、連絡会構成団体や一般の市民の方々など81人が参加しました。(2013年度活動方針は4面をご覧ください)

国民が受診しやすい歯科医療の実現を 2012年度報告、2013年度方針一大藪憲治会長



【開会の挨拶】

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、第7回の総会を迎えることになりました。

2006年に行われた歯科診療報酬改定では、歯科医師が「保険診療ではもうだめだ」と思うような大改悪が行われ、それを経て2007年に設立し、活動してきました。今日は、記念講演で西日本新聞社編集委員の佐藤弘氏を迎えて、食育も含めた食の健康について西日本で実践している内容をお話いただきますので、よろしくお願いします。

【2012年度活動のまとめ報告と2013年度活動方針案について】

政府が進める社会保障と税の一体改革は、患者・国民の負担をさらに増やすものとなっており、その影響が心配されます。一方、歯科では、口腔保健法が制定されて、愛知県でも条例が制定・施行されるなど、歯と口腔の健康が全身の健康に影響し、生き生きと暮らしていくためにも大切であるという認識が広がるとともに、歯科医師が求められる役割も広がってきています。

愛知連絡会では、2012年度に自治体の意見書採択の

運動に取り組み、新たに設楽町で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」が採択されました。全国では意見書を採択した自治体が32.8%となっています。来年度の診療報酬改定に向けた国会請願署名は、11月までの取り組みとしてスタートしています。

市民向け企画としては、昨年の総会で「鼻呼吸から始まる健康生活」と題し、福岡市・みらいクリニックの今井一彰先生から講演いただき、多数の市民の方にもご参加いただきました。また、11月8日の「イイハデー」の取り組みとして「歯の何でも電話相談」を行い、19件の相談を受けました。

今、賃金低下と不安定雇用の中で、国が進めようと

している税と社会保障の一体改革は、自助・共助が中心で公助は最低限しかしないという考えですすめられようとしています。社会保障制度改革国民会議の中では、「いつでもどこでも安心してかかれるというのは幻想」とまで言われています。

歯科は患者が減っていて経営的なきびしさもあります。患者さんも口の中に問題があっても受診していない実態があります。それを解決するためにも、患者さんや国民の皆さんが受診しやすい歯科保険医療の実現を求めて、国会請願署名に取り組んでいきます。国民の健康を守る運動の一つとして、ぜひご協力をいただきたいと思います。よろしくをお願いします。(4面へ)

2013年度活動方針

- ① 国会請願署名に取り組む。目標は6万筆とする。(取り組み期間は4月～11月)
- ② 県内各自治体で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」採択運動に取り組む。
- ③ 「より良く食べるはより良く生きる」出前学習会を開催する。
- ④ イレバデー(10/8)からイイハデー(11/8)までのアピール月間に、「歯の何でも電話相談」を行う。また高齢者大会などで歯の健康と歯科医療改善の必要性を訴える。
- ⑤ 市民向け学習啓蒙企画として市民公開講座を開催する。
- ⑥ 会としての要望事項をまとめ関係各所に働きかける。
- ⑦ ニュースを定期的に発行する。
- ⑧ 事務局会議・世話人会の定期開催と組織の強化をめざす。
- ⑨ 「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。



現在の子どもたちの健康は？ 女子大生の食生活から見えてくるものとは？

記念講演は、「食」「農」「暮らし」の視点から日本を見てきた西日本新聞社編集委員の佐藤 弘さんをお招きしてお話を伺いました。

「正しい話は面白くない」

まずは頭の体操から。「水は高いところから…」の後に続くことばはなんでしょう？「低いところへ流れる」そうですね。では「おごれるものは…」？はい「久しからず」正解です。それでは「正しい話は…」？ 私なら「面白くない」と答えます。歯医者さんのお話は、いろいろないいことを言うんだけど、結局は最後に「歯をよく磨こう」「よく噛もう」という結論で、わかりきっているから面白くないのです。

正しい話の悪い点は“眠くなる” “暗くなる” “明日には忘れていく” ことです。セミナーで聞いた話を行動に生かすには、話を丸呑みせず考える、自分の中で咀嚼することが大事です。私が本当にはお話ししたいのは、コンビニの前にはたむろしているお兄ちゃんやお姉ちゃんたち。そういう人たちの心を動かすには、ストレートに言っても通用しません。理屈の大切さとともに、アプローチの仕方が大切なのです。

子どもたちの低体温の原因は…

思春期の子どもとかかわり、「食」の豊かさが子どもたちをはぐくんでいることに気がつきました。「性」と「生」と「食」はつながっています。喫煙妊婦さんや

食事管理や料理ができないお母さんが増えています。「生」の反対は「死」ではなく、「生まれてこないこと」です。人はそこにいただけで価値があります。「自分

を大切にしよう」「命を大切にしよう」「人に優しくしよう」と言葉でいくら言っても伝わりません。「食卓に冷凍食品ばかり入っている」「子どもの目の前でタバコを吸う」。これでは、自分が大切にされていないことに気づいてしまいます。「あなたが大事だ」というメッセージは、日々の暮らしの中にしか答えがないのです。

最近気がかりなことは、佐世保市で女子高の教員をしている友人の話で、子どもの体温がどんどん低下しているということです。クラス40人中19人が35度台で、いわゆる低体温になっているそうです。戦前の医学書では37度が子どもの平

均体温でした。それがいつしか36度台になり、今は35度台になってしまいました。

どうして体が冷えるのがいけないのか。食べ物は体の中で消化され血や肉、エネルギーになりますが（代謝）、その時に重要な働きをするのが唾液のアミラーゼや胃液のペプシンなどの消化酵素です。酵素が働いてはじめて消化吸収されます。その酵素が最も活性化するのが、人間では36～37度なんです。それが崩れると、臓器の機能が低下し、また免疫力も低下します。最近、若くてもがんで亡くなる人が結構増えましたが、ドクターの話では、がん体質の人は例外なく低体温とことです。低体温の要因として考えられるのは、一つは冷暖房が整いすぎている環境。エアコンに頼った生活では汗腺が発達しません。その他に、体を締め付ける下着や運動不足、朝食抜きや食べ過ぎなどの乱れた食習慣、冷たいもの・甘いものの食べ過ぎ、過激なダイエットなどもあります。砂糖は特に体を冷やします。また、季節はずれの野菜や果物の摂取もいけません。トマトやキュウリなどの夏の野菜を冬に食べると体が冷えます。栄養素だけでなく、私たちの体調や食べ方も考えないと体をおかしくしてしまうのです。

問題は大きな視点で考える

2002年の統計で、日本では赤ちゃんの1.3%、80人に1人が体外受精児です。それが最新の統計では、40人に1人と10年で2倍になっています。今の少子化の問題は、若者の食生活をみると、産まないのではなく、

産めないのではないかと考えてきます。

長崎の大学生の食生活の調査で、一人暮らしの女子大生、実家通いの女子大生、一人暮らしの男子学生の食事の例を挙げましたが、欠食、甘いもの・できあいの

もの・あげものが多い、野菜・魚が少ない、米を食べないなどの特徴があります。これは特別なことではなく、日本のどこでも同じような食生活になっています。

日本人一人当たりの米の年間消費量は、45年前には118kgでしたが、現在は年間60kg。農家は食味をよくしたり、コスト削減などを行って努力してきましたが、食生活の変化などで米の消費量は減っています。この問題は、米のことだけを考えて努力していても解決しません。大きな視点で「食」の問題として考えないと活路は開けないのです。

どうしてこんな食生活に

なるのでしょうか。「簡便だから」「忙しいから」などの理由が考えられますが、「お金がないから」というのは私は違うと思っています。例えばコンビニで弁当とお茶を買えば約500円、茶碗一杯の米の値段は約30円。自分で米を炊き、味噌汁、納豆でも100円で済んでしまうのです。こういう食生活をする人がやがて親になっていきます。それが10年、20年続くと、病気が増え、子どもが産めなくなり、働く若者もいなくなるでしょう。このままでは日本は滅亡してしまうのではないかと心配しています。

「教育は最大のワクチン」

ではどうしたらよいのでしょうか。私は二つあると思います。一つは、今の若い人たちは自分の体のことがわかっていません。若者はいつまでも20歳代が続くと思っています。しかし、自分が親になり、子どもがアトピーやアレルギーになった時に、食生活のことに気づくことになるのです。もう一つは調理する能力がないことです。私は「教育は最大のワクチン」であると言いたいのです。私の見つけた指導のひとつが、こどもがつくる「弁当の日」です。香川県の小学校で始まって“子どもだけでつくる、小学校5・6年生のみ、月1回・年5回”を原則に取り組んでいます。お弁当の出来映えは評価せず、コンテストもしません。下手でも自分で作ったものが一番自慢できる取り組みとしています。「自分でやる」「自分でできる」というのは、日本で今失われている大事な価値観だと思います。

10年前に始まった「弁当の日」は全国1224校で実施されています。残念ながら愛知県では専門学校など二校だけです。隣の岐阜県では66校で取り組まれています。ある学校のPTA総会で私が講演したことをきっかけに、PTAが主体となって広がっています。役員が変わっても続いていけるよう「弁当の日応援団」という形で、横のつながりをつくって取り組んでいます。

「食育」という視点は大事ですが、今の「食育」は結局「食べる」ことしか考えていません。“これを食べれば元気になる”という情報に振り回されていますが、何を食べたかだけでは健康状態のことはわかりません。人の体の状態が一番良くわかるのはウチです。

「食べる」の後には「排出」があり、「食べる」の前には「作る・獲る」があります。そう考えると「作る・獲る」→「買い物する・調理する」→「食べる」→



「排泄する」→「処理する」→「土に返す」→そしてまた

「作る・獲る」という循環があることに気づきます。しかし、ある講演でそこに参加していた歯医者さんに言われて、私に決定的に掛けていたことに気づかされました。それが「噛む」ということだったのです。栄養とか新鮮さとかに目を奪われて、「噛む」ということを考えていませんでした。そこで私が始めたのが、「食卓の向こう側」という連載です。歯科医師の中では常識である「噛む」ということでも、私には新たな知識の連続でした。歯・口だけではなく、例えば姿勢などの体全体、生活全体をみたアプローチが必要だと感じました。

本日ご参加の先生方が「保険で良い歯科医療を」という運動に取り組んでいらっしゃるお聞きしました。しかし、業界の人がその業界のことを一生懸命訴えても運動は広がりません。私と仲間たちが、九州で開催している「命の入口セミナー」では、最初に鼻呼吸や歯科の大切さを「あいうべ体操」の今井一彰先生に話をしてもらい、その後、歯科医師からの話をするように工夫しています。大変好評で、有料でも本当に聞

きたい人が話を聞いて、周りの人に広めてくれる。これが一番よい取り組み方だと思います。

歯科医師などが歯の健康の大切さを教えることも大切ですが、たとえば子どもとかかわる機会が多い学校の先生に教え、その先生が子どもたちに教えることも大事です。「教育は最大のワクチン」なのです。学校では田植え学習がありますが、農作業の「方法」だけでなく、人のくらしや生き方を教えていくことが大切です。「田植え『を』教える」のではなく、「田植え『で』教える」ことを大事にしてほしいと思います。

「保険で良い歯科医療を」の運動では、「田植え」を「歯」や「噛むこと」に置き換えていただくと良いのではないのでしょうか。

新聞を作る上では、「みんなが知っていること」ではなく「みんな知らないけれど大切なこと」を報道することに意義があると思っています。歯の話・口の話はまさにそういうことであり、可能性があると思います。だからこそ運動を広げていく必要があるのです。先生方、皆さんの今後の健闘に期待しております。

2012年度決算報告と2013年度予算案 2013年度役員・世話人体制について



事務局から報告します。

組織的にはまだ小さな連絡会であり、財政面では参加団体から支援をいただいています。2012年度は、過去の未納分も含め参加団体からの会費納入が順調で、約14万円の次期繰越金となりました。2013年度の予算は、請願署名などの運動を強める方針ですので、支出の項目に「運動対策費」を

追加しました。また、会議の時などには関係団体から好意で会議室をお借りしていましたが、会議費の項をもうけてきちんと支払いをしていくこととしました。

役員体制は、引き続き大藪会長、江原副会長、7つの団体の世話人、保険医協会と民主医療機関連合会の事務局体制で行っていきます。世話人では民医連の幅さん、年金者組合の荒川さん、会計監査では、民医連の岩瀬さんが前任の方から交代しています。よろしくお願いします。

フロアからの発言

北生協歯科
島崎 宏行さん



保険料の支払いが大変という方が多くなってきました。

私の勤務する診療所でも短期保険証や生活保護の患者が増えています。短期保険証の方は、保険料すら払えない状況の中で治療中断になってしまうケースがあります。またホームレスの方が1カ月限定で受診した例もありました。

このような中で署名活動に力を入れていこうと話され、職員が分担したり班会などで生協の組合員さんと学習しながら広がっていきたいと思っています。診療所の窓口でもポップアートなども活用しながら、来院した患者さんに協力いただけるよう工夫していきたいと思っています。

歯科医師
富田 力夫さん

署名の請願項目に「保険のきく歯科医療の範囲を広げてほしい」という一文があるが、



保険の基礎的な治療をしつかり行えるよう、補綴などの診療報酬の引き上げの運動もしっかりやっていただきたいと思っています。

保険医協会 歯科部会長
池 潤さん



7月から連絡会会長の大藪先生が保険医協会の歯科部会長になり、まさに連絡会と保険医協会は一心同体となるのでこれまで以上に支えていきたいと思っています。二十数年前に行われた「保険で良い入れ歯運動」

でもそうでしたが、連絡会のような運動では、歯科医師でない方が主導したほうではないかと思えます。また、女性の方にも活躍していただけたらと盛り上がると思います。今後とも協力していきますので、もっとがんばっていきましょう。

歯科受診ができないことは、生存権の問題として広い視野でとらえていく必要があります。

フロアからの発言を 受けて

愛知連絡会
大藪会長



歯科の基礎的な評価が低いのは、「歯科は自費とのトータルバランスで」との考え方が厚労省

にあるからです。歯科医院の経営は自費でやっていけばいいと国の公式見解として言っています。全国連絡会でアンケートをとっても「保険給付の拡大」は患者さんの切実な要求です。基礎技術の評価を上げていくことも大切なことだと思います。しかし、このことについては患者さんが「なぜ歯科の点数はこんなに安いのか」と思うようになってから要求したいと思っています。基礎技術の評価が医療の水準を決めることが理解され、国民の意思が出たときに変わるんじゃないかと思っています。

現在患者さんの受療権が侵されていて、「保険給付の拡大」によって、受療権が拡大されていくことになります。

※ 提案された議案について、拍手で一括して採択されました。

署名活動を周りの人にも広げよう

閉会挨拶一事務局・岩瀬



本日は81名の方にご参加いただき、総会を成功させることができました。また記念講演では大変有意義な時間を過ごすことができました。

総会で提起された署名については、周りの方々にも広げていただき取り組んでいきたいと思っていますので、ぜひご

協力をお願いします。

「保険で良い歯科医療」の実現を求める請願署名

ご協力をお願いします！

国民のみなさんが、お金の心配をせずに、安心して必要な歯科治療が受けられることを求める署名に、6万筆を目標に取り組んでいます。ぜひ、ご協力ください。

※署名用紙・窓ロリーフのご希望は連絡会事務局まで

TEL ; 052 (832) 1349

